

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373900519		
法人名	株式会社だいふく		
事業所名	グループホームほのぼの広場(1F)		
所在地	愛知県稲沢市下津光明寺町39-1		
自己評価作成日	令和 元年10月20日	評価結果市町村受理日	令和 2年 4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajigokensaku_mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JijyosyoCd=2373900519-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和 元年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

この1年、利用者様が高齢化し車椅子の方も多くなり、介護の質も変わってきました。各々の状態に合わせたケアに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度のホームも、理念にある「いつもと同じなじみの顔、暮らしの喜びゆっくりと楽しく」の実現に取り組み、利用者の「普通の生活」を支えている。長年をグループホームで生活した家族同然の利用者を亡くす悲しみと寂しさ、徐々に利用者が入れ替わる新しい出会いと馴染みづくりの楽しみ、少しずつゆっくりと変化するホームの環境等に敏感に反応し、対応できる職員が居ることがホームの一番の強みである。職員の定着率は見事で、開設当時から勤め上げる職員も多い。ホームの独特な雰囲気ともいえる「落ち着き」は、職員の愛しんできた「利用者愛」「ホーム愛」であることがうかがえる。また、ホームの家庭菜園の管理や、季節野菜の到来物、何かと気にかけていただき声を掛け合う近隣地域には、支えられ助けられる温かい関係の継続がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「いつもと同じなじみの顔 暮らしの喜び ゆっくりと楽しく」という理念のもと「普通の暮らし」の実現に努め、個々の状況に合わせた支援を行っている	勤務年数の長い職員がほとんどで、ホームの方針をよく理解し、日常支援に反映する環境が整っている。個々の支援内容が理念に帰結することへの意識が高い。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園児、小学生、中学生の体験学習が毎年あり近所の方々に季節野菜をいただくなど地域の人々との交流も日常的にある	近所の人がホームの菜園の世話を全面的に請け負ってくれ、見事な季節野菜の収穫は利用者の楽しみになっている。近所からの野菜の差し入れは日常的で、利用者の食事に利用している。近隣とは、地域の一せ帯として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生の地域学習、中学生の職場体験などを積極的に受け入れ、認知症の理解を深め関わりを持ってもらう活動をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は市役所、包括支援センター、地区の役員と家族代表の皆様の参加を得て、情報を共有し、いろいろなアドバイスをいただいている	年6回の会議を開催している。家族や地域代表、市担当者・地域包括支援センターの参加を得て、ホームの運営報告を基に意見交換を行っている。時にはホーム行事と併せて開催し、利用者の様子も見ていただく等、ホーム理解の場としても活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所担当者、地域包括支援センターの運営推進会議の参加が叶い、現状の取り組みに意見をいただいている	市担当者・地域包括支援センターの運営推進会議参加で、ホームの実情理解を進めている。運営や利用者に関する相談、報告等を通じ、適切に助言や指導を仰ぎ、運営に反映させている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1階の身体拘束適正化検討委員会を実施し、個々の状況に対しての事例検討を行っている。基本的に身体拘束をしないケアに努めている玄関は施錠していない	身体拘束適正化委員会を設置し、3か月毎に委員会を開催している。委員会での検討内容は、職員会議で全職員に周知している。また、年間研修計画に身体拘束の勉強会を位置付け、新しい知識と正しい理解を習得している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修会を行っており、個別指導も行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に対して勉強会を行っているが、後見人制度を活用している利用者はいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所のケアに対する取り組み、又、家族の疑問点を尋ね、十分な説明を行い、理解と納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々家族の来訪が多くあり、意見や要望を伺って運営や支援に反映させている	敬老会と併せて開催する家族会の参加率は良好で、忌憚のない意見交換の場として活用している。毎月の利用料支払いで来訪の機会を確保し、面談を通して意見や意向を聞き取っている。聞き取った内容は、職員周知・検討で、運営や支援に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃からコミュニケーションを取るよう心がけて改善点を一緒に考えている	ユニット会議、勉強会等、毎月意見表出の機会を作っている。ホームと利用者を思う職員意見は多種多様で、運営の改善につながる内容も少なくない。管理者・運営者は会議に同席し、職員意見・提案を聞き取り、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が長く働ける環境づくりに取り組んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内で勉強会を開き、同一目線での介護を心掛けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護は日々進歩しているため、新しい知識を各々が早く習得できるよう研修を多くしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族や本人の面接を行い、不安や要望を聞いて本人の安心を確保するように努めている。また、ご家族は入居の際に、困っていることを隠される場合がある		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との対話を多くして不安や要望に耳を傾けて信頼関係を築けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で本人が周りを含め安心して暮らしていけるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室の掃除やテーブル拭き、洗濯物のハンガー掛けなど小さな事でも役割を持って生活できるようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族との対話をできるだけ多くして共に支えていく関係を築けるように努力している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎日曜日になじみの喫茶店に行ったり家族となじみのお店で外食したりと交流がとぎれないよう支援している	「家族との縁結び」を念頭に、関係継続を支援している。頻回な面会のほか、家族外出を推奨し、外食や外出、買い物等、馴染みの場所や飲食店への外出を楽しんでいる利用者が多い。「家族にしかできないこと」を家族に説明し、協力を得ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立しないように共通の話題を提供して利用者同士関わり合えるように支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退所されても家族の相談を受けている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望を聞き取り、継続できる取り組みは介護計画に反映させている	職員全員で利用者全員の様子観察を行い、自身の気づきや把握した情報をケアカンファレンスで共有している。サービス担当者会議には家族もあり、日常の様子の報告を踏まえた意向や希望の聞き取りを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテークの場だけでは情報が不足することが多い、またご家族があまり把握していない場合もある		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活暦の違いがあり個性をいかした生活ができるように心がけている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族、関係者が一同に会する担当者会議をして介護計画を立てている	短期目標3か月、長期目標6か月の期間を目途にサービス担当者会議を開催し、支援内容の見直しを実施している。サービス担当者会議には家族の参加があり、家族と一緒にモニタリングを実施し、今後の介護計画を話し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し健康状態の把握に努めている。また日々の日記をつけている。職員の対応や会話なども記録している 状況に応じて介護計画の見直しをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の思いや考え方を把握して柔軟に対応できるように努力している。気軽に面会に来られるように事業所の鍵は開放している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員会を活用し、市や地域、家族との話し合いをしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望でかかりつけ医を選んでいる ホームの協力医の月1回の往診や、体調をみながら早めの対応ができるよう支援している	ホーム協力医の月1回の往診を支援している。訪問歯科、訪問マッサージの支援もある。協力医医師の判断で、専門医受診が必要な場合は、家族と連携して受診をお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問介護ステーションと連携して毎週来てもらっている。また施設内の看護士と相談し適切な受診、看護を受けられる様支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際にはできるだけ見舞いに伺い、ご本人の様子を確認するとともに、病院関係者との打ち合わせをするようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	できるだけ終末期まで診れるように日頃から家族と病院との連携を深めている。看護士と相談しながらチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書に、終末期支援と看取りに関する指針を明示し、入居時に口頭で説明を行っている。ホームのできる限りの対応を原則とし、状態変化の都度、ホームの支援できる範囲を説明し、方針を決定している。ホームでの対応が難しくなった場合は、本人にとって最善の方法が選択できるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の備えに対して訓練や研修会を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の度に災害時の避難場所や通報についての確認を行っている。また、地域の防災訓練への参加や、非常食や持ち出し袋、ライトのセットなども用意している	年2回の避難訓練を実施している。玄関には避難用ヘルメットの設置がある。風水害についても、避難方法や避難経路を検討し、運営推進会議でも話し合いの場を設けている。飲食料の備蓄も進み、高い意識で有事に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように気をつけている、言葉かけにも気を付けるよう職員にも指導している	ホームの年間研修計画に、プライバシー確保や接遇、認知症対応等の勉強会を位置付け、対応方法を協議・検討している。職員はこれをよく理解し、日常支援に当たっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自主的な行動は難しい方もいるため、複数の選択肢から選んでいただけるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日のスケジュールはあるが、おひとりおひとりの生活ペースに沿って生活していただいている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容院やかかりつけの美容院に行かれる人もある。また、身だしなみに気をつけていただけるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配食材を利用して適切な量やカロリーを管理して豊富なメニューの食事を提供している、特に日曜日のお昼は希望メニューを提供しており、おはぎは特に喜ばれている	平日は配食材を活用し、豊富なメニューで利用者の楽しみに応じている。日曜日は自由食の日に定め、各ユニットが利用者の希望を聞きながら好みの献立を工夫している。ユニットが隔日に一括調理を行い、利用者との関りの時間を確保している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調に合わせて食事量や水分量、嚥下にあわせ食事形態を工夫して提供している。夏場は特に水分量に気を付けている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。又、訪問歯科の口腔ケアを利用している人もいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間誘導だけでなく本人の行動やパターン、習慣を活かしてトイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄を基本に支援している。現在重度化が進み、全体の2/3の利用者が身体的介助が必要な状態にある。利用者一人ひとりの状態と状況に合わせ、適切な支援方法を検討し、職員同対応の支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のラジオ体操や元気体操、ポール体操、天気のいい日には散歩などの運動を行ったり、食事にも気を使っている。特に水分の摂取量に気を使っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全面から職員の多い日中の時間帯で行っている。順番はできる限り変えて各々が入浴を楽しむことができるように支援している。体調不良の際は清拭をしている。	日曜日以外の隔日をユニット毎に交互に入浴日としている。入浴日ではないユニットが昼食を一括調理し、職員数を確保して、入浴日にはユニット全員が入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時間は一人ひとりにあわせ消灯時間は特に決めていない。昼夜逆転しないように気をつけている。昼食後には午睡の時間を設けているため、休みたい方は居室にて休まれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	業務日誌に薬剤情報を入れ、すぐに確認できるようにしている。また、薬を飲み終わるまで職員が支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクリエーションだけでなく、お好きなゲームや楽しみごとで気分転換をしていただいている。日常生活でできることは手伝っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には車椅子の人も含め屋外に出るか散歩に出かけるようにしている。飲食店や花見に出かけたりもしている	気候と天気の良い日の散歩は日課として継続している。重度化で、全員での外出が難しくなり、現在は希望に沿った個別対応が主になっている。家族外出で馴染みの場所へ出かけたり、外食を楽しむ利用者もおられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金のしまい忘れによる妄想のある方もあるため、お金は小額にさせていただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御兄弟と手紙のやり取りをされている方もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は1日3回清掃している。毎月毎月の季節感を感じられるような壁紙を皆さんで作り共に喜びを分かち合うことを大切にしている、また、各々の作品を掲示している	毎年中学校の職場体験を受け入れ、利用者とともに貼り絵の作品作りを行い、歴代の思い出の作品が掲示してある。また、行事の写真が多く掲示され、来訪者にも利用者の日々の様子がわかるように工夫している。リビングは広い窓からの採光に恵まれ、掃除の行き届いた清潔な清々しい生活環境保持がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールだけでなくあちこちにおいてあるソファに座り交流を図っている、車椅子で自乗される方は自由に移動していただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室であり、ご本人の好みにしつらえていただいている。プライバシー保護には気を付けている。	入居時に馴染みの物品の持ち込みを依頼し、家族と共に本人の落ち着いた環境整備に努めている。日中をリビングで過ごす利用者がほとんどで、特に午睡や就寝時に不安なく過ごせる場所となるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心、安全な環境づくりを目指して一人ひとりが自立した生活を送れるように工夫している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373900519		
法人名	株式会社だいふく		
事業所名	グループホームほのぼの広場(2F)		
所在地	愛知県稲沢市下津光明寺町39-1		
自己評価作成日	令和 元年10月20日	評価結果市町村受理日	令和 2年 4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvossyoCd=2373900519-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和 元年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

この1年、利用者様の入れ替わりがあり、新しい顔ぶれが増えました。職員一同各々に合ったケアに取り組み日々努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「いつもと同じなじみの顔 暮らしの喜び ゆっくりと楽しく」という理念のもと「普通の暮らし」の実現に努め、個々の状況に合わせた支援を行っている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園児、小学生、中学生の体験学習が毎年あり近所の方々に季節野菜をいただくなど地域の人々との交流も日常的にある		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生の地域学習、中学生の職場体験などを積極的に受け入れ、認知症の理解を深め関わりを持ってもらう活動をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は市役所、包括支援センター、地区の役員と家族代表の皆様との参加を得て、情報を共有し、いろいろなアドバイスをいただいている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所担当者、地域包括支援センターの運営推進会議の参加が叶い、現状の取り組みに意見をいただいている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1階の身体拘束適正化検討委員会を実施し、個々の状況に対しての事例検討を行っている。基本的に身体拘束をしないケアに努めている 玄関は施錠していない		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修会を行っており、個別指導も行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に対して勉強会を行っているが、後見人制度を活用している利用者はいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所のケアに対する取り組み、又、家族の疑問点を尋ね、十分な説明を行い、理解と納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々家族の来訪が多くあり、意見や要望を伺って運営や支援に反映させている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃からコミュニケーションを取るよう心がけて改善点を一緒に考えている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が長く働ける環境づくりに取り組んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内で勉強会を開き、同一目線での介護を心掛けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護は日々進歩しているため、新しい知識を各々が早く習得できるよう研修を多くしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族や本人の面接を行い、不安や要望を聞いて本人の安心を確保するように努めている。また、ご家族は入居の際に、困っていることを隠される場合がある		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との対話を多くして不安や要望に耳を傾けて信頼関係を築けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で本人が周りを含め安心して暮らしていけるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室の掃除やテーブル拭き、洗濯物のハンガー掛けなど小さな事でも役割を持って生活できるようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族との対話をできるだけ多くして共に支えていく関係を築けるように努力している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎日曜日になじみの喫茶店に行ったり家族となじみのお店で外食したりと交流がとぎれないよう支援している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立しないように共通の話題を提供して利用者同士関わり合えるように支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退所されても家族の相談を受けている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望を聞き取り、継続できる取り組みは介護計画に反映させている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテークの場だけでは情報が不足することが多い、またご家族があまり把握していない場合もある		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活暦の違いがあり個性をいかした生活ができるように心がけている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族、関係者が一同に会する担当者会議をして介護計画を立てている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し健康状態の把握に努めている。また日々の日記をつけている。職員の対応や会話なども記録している状況に応じて介護計画の見直しをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の思いや考え方を把握して柔軟に対応できるように努力している。気軽に面会に來られるように事業所の鍵は開放している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員会を活用し、市や地域、家族との話し合いをしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望でかかりつけ医を選んでいる ホームの協力医の月1階の往診や、体調をみながら早めの対応ができるよう支援している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問介護ステーションと連携して毎週来てもらっている。また施設内の看護師と相談し適切な受診、看護を受けられる様支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際にはできるだけ見舞いに伺い、ご本人の様子を確認するとともに、病院関係者との打ち合わせをするようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	できるだけ終末期まで診れるように日頃から家族と病院との連携を深めている。看護師と相談しながらチームで支援に取り組んでいる		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の備えに対して訓練や研修会を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の度に災害時の避難場所や通報についての確認を行っている。また、地域の防災訓練への参加や、非常食や持ち出し袋、ライトのセットなども用意している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように気をつけている、言葉かけにも気を付けるよう職員にも指導している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自主的な行動は難しい方もいるため、複数の選択肢から選んでいただけるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日のスケジュールはあるが、おひとりおひとりの生活ペースに沿って生活していただいている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容院やかかりつけの美容院に行かれる人もある。また、身だしなみに気をつけていただけるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配食材を利用して適切な量やカロリーを管理して豊富なメニューの食事を提供している、特に日曜日のお昼は希望メニューを提供しており、おはぎは特に喜ばれている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調に合わせて食事量や水分量、嚥下にあわせ食事形態を工夫して提供している。夏場は特に水分量に気を付けている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。又、訪問歯科の口腔ケアを利用している人もいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間誘導だけでなく本人の行動やパターン、習慣を活かしてトイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のラジオ体操や元気体操、ボール体操、天気のいい日には散歩などの運動を行ったり、食事にも気を使っている。特に水分の摂取量に気を使っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全面から職員の多い日中の時間帯で行っている。順番はできる限り変えて各々が入浴を楽しむことができるように支援している。体調不良の際は清拭をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時間は一人ひとりにあわせ消灯時間は特に決めていない。昼夜逆転しないように気をつけている。昼食後には午睡の時間を設けているため、休みたい方は居室にて休まれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	業務日誌に薬剤情報を入れ、すぐに確認できるようにしている。また、薬を飲み終わるまで職員が支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクリエーションだけでなく、好きなゲームや楽しみごとで気分転換をしていただいている。日常生活でできることは手伝っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には車椅子の人も含め屋外に出るか散歩に出かけるようにしている。飲食店や花見に出かけたりもしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金のしまい忘れによる妄想のある方もあるため、お金は小額にさせていただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御兄弟と手紙のやり取りをされている方もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は1日3回清掃している。毎月毎月の季節感を感じられるような壁紙を皆さんで作り共に喜びを分かち合うことを大切にしている、また、各々の作品を掲示している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールだけでなくあちらこちらにおいてあるソファーに座り交流を図っている、車椅子で自操される方は自由に移動していただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室であり、ご本人の好みにしつらえていただいている。プライバシー保護には気を付けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心、安全な環境づくりを目指して一人ひとりが自立した生活を送れるように工夫している		